

瓦版

海のハンター展 特別号

日本初公開 液浸標本

3.1メートルのホホジロザメ



佐藤さんと300kgオスのホホジロザメ



さまざまなサメが大集合

現在、世界最強の日本で初のホホジロザメを持つ。効率よく、肉食魚類、ホホジロザメ成魚の全身液浸かつ速く泳ぐための構造で噛む力が一・八トタ。これを企画した、尾鰭の付根には、水平尾翼のような構造と第一位を誇る彼沖縄美ら島財団の佐も観察できる。この役らの歯の縁は、ノコ藤圭一さんによれ割は充分には解明されギリ状で獲物を切りば「ホホジロザメのていはいない。多くの労力と時間。裂くときに力を発揮特徴はなんとって アイデアを重ねて製作する。今回は国立科も顎と歯である」と アイデアを重ねて製作学博物館『海のハン語る。しかし歯の見されたホホジロザメ成ター展』最大の見どせ方に苦心したさう魚の全身液浸標本。しころである、このホだ。目が反転してしかしホホジロザメの研ホジロザメの驚くべまう全開の口ではな究はまだ謎は多い。こき能力を報告する。く、あえて半開きの標本から新たなこと国立科学博物館は口を再現したのだ。が発見されるだろう。

また彼らは、珍しい特徴である三日月形の尾鰭を持つ。効率よく、肉食魚類、ホホジロザメ成魚の全身液浸かつ速く泳ぐための構造で噛む力が一・八トタ。これを企画した、尾鰭の付根には、水平尾翼のような構造と第一位を誇る彼沖縄美ら島財団の佐も観察できる。この役らの歯の縁は、ノコ藤圭一さんによれ割は充分には解明されギリ状で獲物を切りば「ホホジロザメのていはいない。多くの労力と時間。裂くときに力を発揮特徴はなんとって アイデアを重ねて製作する。今回は国立科も顎と歯である」と アイデアを重ねて製作学博物館『海のハン語る。しかし歯の見されたホホジロザメ成ター展』最大の見どせ方に苦心したさう魚の全身液浸標本。しころである、このホだ。目が反転してしかしホホジロザメの研ホジロザメの驚くべまう全開の口ではな究はまだ謎は多い。こき能力を報告する。く、あえて半開きの標本から新たなこと国立科学博物館は口を再現したのだ。が発見されるだろう。

海の食物連鎖 喰うか喰われるか



機能は押える、刺す、切る、潰すがある

今回の注目はそれぞれの捕食方法。エネルギーの奪い合いともいえる彼らの捕食は、鋭い歯を使うものもあれば、自らが持つ毒を相手に刺すものもいる。また食べられないための食については注目し、特学博物館「海のハンター展」の開会式は「多くの関係者が集まる中開催された。主催者を始めとする方々からの挨拶。監修者の紹介、テープカットが行われた。国立科学博物館の林良博館長(写真左から2番目)は「海のハンター展では捕

チャンスは一〇月二日まで

海のハンター展

七月七日、国立科学博物館「海のハンター展」の開会式は「多くの関係者が集まる中開催された。主催者を始めとする方々からの挨拶。監修者の紹介、テープカットが行われた。国立科学博物館の林良博館長(写真左から2番目)は「海のハンター展では捕

レイアウトデザイン 阿部

編集 編集部一同